

支援対象団体	事業名	生きづらさに寄り添う居場所づくりと社会へのつなぎ手ふきのとうの未来図
	事業名（副）	～想いをつむぐ居場所づくりと持続可能なかたちづくり～
	団体名	不登校・ひきこもり家族の会「ふきのとう」☒

Ⅰ.団体の社会的役割

(1)団体の目的
不登校・ひきこもりの当事者を支える家族が安心してつながり、情報を共有し合える場をつくることを目的に設立した。家族が孤立せず、お互いに支えあえる環境づくりを目指している。生きづらさを抱える本人にとって自分らしく過ごせる居場所となり、無理のない一歩につながることを大切にしている。また、大人が役割から離れて楽しむ活動を通じて、家庭や地域に笑顔とやさしさが広がる社会を目指している。
(2)団体の概要・活動・業務
家族の会の活動を通じて、経験を語りながら交流し情報交換できる安心の場を提供し、居場所の運営により利用者がほっと過ごせる環境づくりを行っている。不登校・ひきこもりを社会全体の課題として共有するため、サポーター養成講座や不登校やひきこもりに関する講演会や進路相談会等を開催している。さらに、社会福祉法人から無償貸与された居場所の管理運営も担い、地域に開かれた支援拠点としての役割を果たしている。
☒

Ⅳ.事業設計

(1)中長期アウトカム

不登校・ひきこもりを中心とした生きづらさを抱える人の居場所として活動し、法人化によって多様な団体や人々と連携する地域ネットワークの形成を目指す。生きづらさを抱える人や家族が孤立せず相談でき、その人らしい暮らしの実現に向けて多様な資源につながる地域の拠点となる。不登校・ひきこもりを個人の問題ではなく社会の課題として捉える理解が地域に広がることを目指している。

(2)短期アウトカム	100字	指標	100字	初期値/初期状態	100字
1「不登校・ひきこもり」に対する理解を得るための周知活動及び生きづらさを抱える人々の居場所づくりができています		講演会開催回数：年10回 SNSに発信回数：月平均6回 利用者アンケートによる「安心して過ごせた」「話せて楽になった」などの肯定的回答率：8割		講演会開催回数：年9回 SNS発信回数 月平均4.4回 初回アンケート未実施のため数値なし	
2 常勤スタッフによる安定した組織運営ができる体制が整っている		サポーター定例会開催回数：5回 居場所スタッフ数：6名 イベントコアスタッフ参加数：5名		サポーター定例会開催回数：4回 居場所スタッフ数：4名 イベントコアスタッフ参加数：3名	

[illegible]

(活動	
1-1-1.親の会の継続的な実施	19/200字
1-1-2.不登校やひきこもりをテーマとした講演会で親の会を紹介する	39/200字
1-1-3.定期的にイベントを企画し、届けたい人へ情報を届ける	34/200字
1-2-1.対象者へ進路相談会について案内する	26/200字
1-2-2.ふきのとうブースの内容見直し（親の会としての相談だけでなく、各イベント・講演会の情報を届ける）	60/200字
1-2-3.進路相談会の内容についてのネットワークとの協議	32/200字
1-2-4.ふきのとうの紹介動画を作り、ブース等で流す	31/200字
1-2-5.講演会や進路相談会において他団体と事業連携を行う	33/200字
1-3-1.スタッフ・サポーターなど参加者に関する情報共有の場を定期的に作る	45/200字
1-3-2.利用者に合わせたツール（本、楽器、画材など）を整備する	40/200字
1-3-3.音楽やアートなどの体験活動をするための専門的な人の確保	35/200字
2-1-1.サポーター養成講座を継続して実施する	24/200字
2-1-2.サポーター交流会を定期的に開催する	24/200字
2-1-3.スタッフとして協力してもらえそうな人に随時公式LINEに招待する	40/200字
2-2-1.親の会、相談会などでの組織運営に関われそうな人に声をかける	43/200字
2-2-2.企画、調整、広報等の役割を整理し共有する	30/200字
2-3-1.財務の面に関して社会福祉協議会と定期的にミーティングを行う	41/200字
2-3-2.親の会や関係者の中から事務職として関われそうな人に声をかける	45/200字
2-3-3.団体内で会計処理や労務管理の基本ルールを整理する	35/200字
3-1-1.助成金のリサーチを行う	20/200字
3-1-2.ふきのとうにおける助成金獲得方法について社会福祉協議会と協議をする	48/200字

[illegible]

0/200字

0/200字